

平成 22 年 4 月 9 日

各 位

会社名	株 式 会 社	原 弘 産
代表者の役職氏名	代表取締役社長	原 將 昭
	(コード番号 8894 大証第 2 部)	
問い合わせ先	財務・経営企画室長	樋 口 清
電話番号	0 8 3 - 2 2 9 - 8 8 9 4	

### たな卸資産評価損及び特別損失の発生並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、たな卸資産評価損及び特別損失を計上する見込みとなりましたので、その概要をお知らせいたします。また、たな卸資産評価損及び特別損失の計上並びに最近の業績動向等を踏まえ、平成 21 年 10 月 13 日付で発表いたしました平成 22 年 2 月期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

#### 記

#### 1. たな卸資産評価損の発生について

平成 22 年 1 月 14 日公表の「たな卸資産評価損に関するお知らせ」でお知らせいたしておりますとおり、平成 22 年 2 月期第 3 四半期会計期間において、「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用に伴い、たな卸資産評価損を連結で 1,096 百万円、個別で 845 百万円を売上原価として計上しておりますが、本決算に当たり再度たな卸資産の評価を実施し、平成 22 年 2 月期第 4 四半期会計期間において、たな卸資産評価損を連結で 1,648 百万円、個別で 1,242 百万円を追加計上する見込みとなりました。このことから第 2 四半期以降新たにたな卸資産評価損として、連結で 2,745 百万円、個別で 2,088 百万円を計上する見込みとなりました。

#### 2. 特別損失の発生について

平成 22 年 2 月期第 4 四半期（平成 21 年 12 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日）において、下記のとおり特別損失を計上する見込みです。

(連結)

##### ①投資有価証券評価損 347 百万円

当社が保有する投資有価証券について、投資先の財務状況等を勘案し計上するものです。

##### ②固定資産売却損 77 百万円

連結子会社である(株)石川再資源化研究所が所有する機械装置を売却したこと等により計上するものです。

##### ③投資有価証券売却損 14 百万円

当社が保有する投資有価証券を売却したことにより計上するものです。

(個別)

##### ①投資有価証券評価損 347 百万円

当社が保有する投資有価証券について、投資先の財務状況等を勘案し計上するものです。

②関係会社株式評価損 173 百万円

連結子会社である㈱石川再資源化研究所の財務状況を勘案し計上するものです。

③債務保証損失引当金繰入額 44 百万円

連結子会社である㈱原弘産レジデンスに対し当社が連帯保証を行っておりますが、同社の財務内容を考慮し計上するものです。

④投資有価証券売却損 14 百万円

当社が保有する投資有価証券を売却したことにより計上するものです。

上記をそれぞれ平成 22 年 2 月期第 2 四半期以降、連結では 465 百万円を、個別では 606 百万円を特別損失として計上する見込みとなりました。

### 3. 連結業績予想数値の修正

平成 22 年 2 月期通期（平成 21 年 3 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日）

（単位：百万円、%）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	13,100	△3,920	△4,440	△4,590	△357 円 78 銭
今回修正予想 (B)	11,087	△5,876	△6,658	△10,161	△792 円 04 銭
増減額 (B-A)	△2,013	△1,956	△2,218	△5,571	—
増減率 (%)	△15.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 2 月期)	20,096	△3,536	△5,981	△9,134	△712 円 05 銭

### 4. 個別業績予想数値の修正

平成 22 年 2 月期通期（平成 21 年 3 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日）

（単位：百万円、%）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	6,950	△1,970	△2,430	△1,960	△152 円 78 銭
今回修正予想 (B)	4,867	△3,994	△4,752	△7,602	△592 円 57 銭
増減額 (B-A)	△2,083	△2,024	△2,322	△5,642	—
増減率 (%)	△30.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 2 月期)	11,852	△2,882	△4,398	△12,403	△966 円 83 銭

### 5. 業績予想の修正の理由

#### (1) 連結

売上高につきましては、計画していたたな卸不動産の売却が進まず計画を下回りました。営業利益、経常利益につきましては、売上高の不振及び上記 1 の「たな卸資産評価損の発生について」において記載のとおり、たな卸資産の評価損を売上原価として計上する見込みであることから、計画をそれぞれ下回る見込みです。当期純利益につきましては、上記 2 の「特別損失の発生につ

いて」において記載のとおり、第2四半期以降 465 百万円を特別損失として計上する見込みであり、また、平成 21 年 12 月 21 日に繰上償還請求が予想されていた 2012 年満期ユーロ円建A種転換社債型新株予約権付社債（発行総額 2,500 百万円）について、大幅減額した金額での買取交渉を進め、約 2,300 百万円の社債償還益の計上を見込んでおりましたが、これまでのプレスリリースにてお知らせのとおり、この償還が第 25 期にずれ込んだことから、前回予想を大幅に下回る見込みです。

(2) 個別

連結業績修正の記載とほぼ同様の理由により、個別の業績予想を修正するものです。

(注) 上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報により作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる場合があります。

以 上